



「win-win」の地域連携を目指す、第二日赤 地域連携強化の取組

2023年3月30日

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援課室長の副院長 魚嶋 伸彦（うおしま のぶひこ）です。今回は我々、京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援課室がこの2年間、力を注いできました【地域連携強化への取り組み】を紹介させていただきます。

コロナ禍収束後は、地域の先生方と活発な議論を交わし、膝を交えた交流を図ることができればと考えております。本日はご紹介する我々の取組をご覧いただき、この記事をご覧いただいている先生方も、是非当院の合同症例検討会にご参加いただけますと幸いです。



魚嶋 伸彦

副院長

血液内科

部長

我々は、地域の先生方とお互いが「win-win」となる連携を重視しています

これまで地域医師会と毎年7月に「病病・病診連携懇話会」と銘打った講演会および懇親会を開催してきました。

この会では、我々からの病院・医師・取組の紹介だけでなく、前方・後方連携を行う医療機関の方々にもご講演いただき、現状の医療制度に即したお互いがwin-winになる連携の在り方を検討してまいりました。

また、各診療科が病院のある釜座通りの名をとって「釜座〇〇セミナー」という勉強会を医師会や製薬会社との共催で実施して、診療科と地域の先生の間を築いてきました。さらに2年前よりクリニック

の先生方を中心に、各医療機関の先生方との繋がりを深めるために、各地域医師会との【診療科横断的な症例検討会】を実施してきました。

地域の先生方との連携を強固にする「症例検討会」

これは、先に述べた懇話会や地域医療支援病院推進委員会で、地域の先生方から多数のご要望があった企画であります。この企画のように、当院は地域の先生方との連携の中でいただいたご要望を踏まえ、連携のあり方を常に模索しています。

今回は、この各医師会との合同症例検討会について紹介させていただきます。

1. 第一回 上京東部医師会症例検討会（2021年12月9日）

まず、第一回はまさしく当院のお膝元である上京東部医師会の先生方を院内にお招きし、循環器内科と糖尿病内分泌内科にご紹介いただいた症例の診断や治療経過とその疾患に関連した最近のトピックスを提示しました。（写真1、2）

写真1

慢性心房細動に合併した急性下肢動脈閉塞症の一例 （循環器内科 桐井 陽祐）



80歳男性。夜間突然、左下肢膝関節以遠の冷感と疼痛を自覚し救急搬送。慢性心房細動に合併した急性下肢動脈閉塞症と診断し、緊急末梢血管治療（EVT）を実施、下肢血流の再開を得た症例。抗凝固療法の在り方について議論し、また心房細動に対するアブレーション治療を紹介。さらに当院心臓血管外科が取り組む左心耳切除術の有用性について解説した。

写真2

徐々に貧血が進行し、全身倦怠感・体重減少・動悸を認めた一例 (糖尿病内分泌内科 市川 貴博)



72歳女性。貧血・体重減少でご紹介いただき甲状腺機能亢進症と診断した症例。高齢者で慢性腎臓病の併発があり、甲状腺機能亢進症状が出にくい masked hyperthyroidism の症例であった。高齢者や慢性腎臓病を有する症例で、いかに甲状腺機能亢進症の診断にたどり着くかを会場参加の先生と共に議論した。

2. 第一回 右京医師会症例検討会(2022年1月29日)

消化器内科、整形外科、感染制御部が担当して、当院から西方面に位置し交通の便もよく、多くの症例をご紹介いただく右京区医師会との症例検討会を実施しました。この会よりコロナ禍のためハイブリッド開催となりました。(写真3、4、5)

写真3

内視鏡的切除を行った胃病変の一例 (消化器内科 中村 志歩)



65歳男性。胃体中部前壁の粘膜下腫瘍が増大傾向を示すため紹介受診。超音波内視鏡などで精査後、増大傾向を示すため、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で切除した。最終診断が粘膜下異所性胃腺であった稀な一例である。粘膜下腫瘍の鑑別診断について議論するとともに、超音波内視鏡やESDの手技について紹介した。

写真4 ロボット支援人工膝関節置換術（整形外科 医長 平井 直文）



当院が取り組むロボット支援全人工膝関節置換術の大きなメリット（インプラント設置精度の向上、軟部組織バランスの最適化）について説明し、実際に紹介いただいた84歳の手術について供覧した。（2022年4月18日記事もご参照ください。）

2022年4月18日記事

写真5 当院のCOVID-19に感染対策について（感染制御部 盛田 篤広）



当院はコロナ禍において、京都の救急医療の“最後の砦”としての役割を維持しつつ、COVID-19患者も多く受け入れてきた。そのなかで大きな院内クラスターを起こすことなく通常診療の制限を最小限に抑えてきた。それを可能にした当院における入院スクリーニング、濃厚接触者の扱いを詳説。また、大規

模接種会場でのワクチン接種とワクチンの副反応について解説した。地域における COVID-19 診療の在り方について熱い議論になった。

3. 第一回 中京西部東部医師会合同症例検討会（2022年12月17日）

膠原病内科、消化器内科、整形外科が担当して、丸太町通りを挟んで当院の南に位置し、やはり多くの患者さんをご紹介いただく中京西部医師会との症例検討会を開催しました。（写真6、7、8）

写真6 顎関節痛で発症した巨細胞性動脈炎の一例（膠原病内科 蔦田 勇輝）



74歳女性。右顎関節痛、開口障害、頭痛で紹介来院。両側頭動脈怒張、CRP高値あり、PET/CT検査で側頭動脈に異常集積。側頭動脈生検で巨細胞性動脈炎と診断。如何にこの疾患を疑うかや、眼症状の有無の重要性、治療について詳説した。

写真7 暖気を契機に認めた膵尾部癌の一例（消化器内科 小川 智也）



65歳男性。数か月持続する暖気を主訴に紹介受診。CTで膵尾部に乏血性腫瘍を認め、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）で膵腺癌と診断。多発リンパ節転移あり、切除不能と判断し、BRCA検査、マ

イクロサテライト不安定検査などの「コンパニオン診断」も踏まえて治療方針を決定した。膀胱癌早期診断や最先端のゲノム医療への当院の取り組みを紹介した。(2022年7月19の記事もご参照ください。)

2022年7月19日記事

写真8

当院脊椎外科の取り組み ～骨粗鬆性椎体骨折を中心に～ (整形外科 医長 阪田 宗弘)



骨粗鬆性椎体骨折の適確な診断のポイントと、当院が取り組む低侵襲脊椎後方固定術の早期実施（手術までの待機期間の大幅短縮を実現）について説明した。さらに術後に多職種が連携して包括的に提供している骨粗鬆症リエゾンサービスについて紹介した。また骨粗鬆性椎体骨折と鑑別を要する転移性脊椎腫瘍などの疾患についても言及した。(2022年5月20日記事もご参照ください。)

2022年5月20日記事

4. 第二回 右京医師会症例検討会（2023年2月18日）

循環器内科、呼吸器内科、泌尿器科が担当し右京医師会との第2回症例検討会を実施しました（写真9、10、11）

写真9 心房細動による心不全の二症例（循環器内科 民西 俊太）

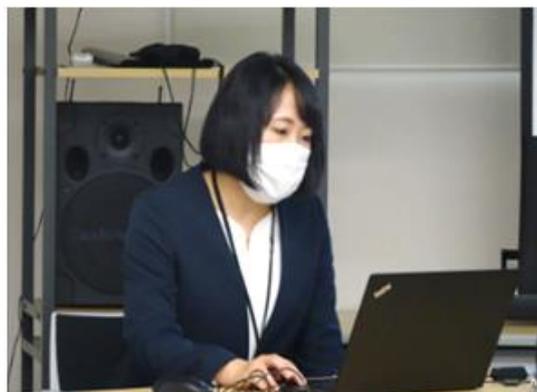


症例1：77歳男性。心不全で紹介受診。慢性心房細動による右心不全が主たる病態であると診断。利尿剤でコントロールした。レイトコントロールに使う薬剤に関して会場からも質問があり議論した。

症例2：74歳男性。頻脈性心房細動、胸水貯留で紹介受診。心房細動による心不全と診断し、アブレーションを実施し洞調律化に成功。以後10年間洞調律を維持し、心不全の再燃もなし。

2症例を比較して早期リズムコントロール治療すなわちアブレーション治療の有用性について説明した。

写真10 非小細胞肺癌に対する分子標的薬の進歩 ～希症例から考える～ (呼吸器内科 堤 玲)



43歳女性。右肺下葉の腫瘤影、縦隔リンパ節腫脹、両側胸水・心嚢液を指摘され紹介受診。気管支鏡下生検で肺多形癌と診断。遺伝子パネル検査でEGFR-Ex19.del.陽性が判明し、分子標的薬 osimertinib で治療。肺がんの診断におけるパネル検査の重要性、最新治療について言及した。（2022年11月21日記事もご参照ください。）

2022年11月21日記事



MRI 画像とリアルタイム超音波画像を融合させて正確なターゲティングを行う Koelis 社製 Trinity による前立腺生検の有用性、da Vinci Xi を使用したロボット支援下前立腺全摘除術の実際を説明した。また、PSA 測定を前立腺癌早期発見にどう使うか、術後どのようにフォローアップするかについても説明した。（2022 年 8 月 29 日記事もご参照ください。）

2022 年 8 月 29 日記事

「症例検討会」参加医師からの感想

【参加していただいた地域の先生の感想】

- 多岐にわたる症例検討会を期待しています。
- 診療科にこだわらないです。内科開業医にとってマイナー診療科の知識も増やしたいので皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科などの症例提示も歓迎です。
- さらに具体的な地域連携情報を希望します。
- 録画をオンデマンドで観ることができるといいなと思います。

これからも熱意をもって地域連携を進める

今回の記事では、当院がこの 2 年間、力を注いできました【地域連携強化への取り組み】として、これまで 4 回実施した【地域医師会との合同症例検討会】をご紹介しました。

いずれの症例検討会も、地域の先生と当院の専門医が「一般的な疾患を如何に見逃さずに診断にたどりつくか」「予後不良の疾患を如何に早期に診断するか」を真剣に議論してきました。

また本院が取り組む「ゲノム医療」や「先端技術を駆使した手術」など、様々な方面の専門診療を紹介させていただくことで、地域の先生に専門外領域の最新動向を「診療科横断的」に知っていただける会になっています。

今後、内容を益々ブラッシュアップして、地域の先生に「参加してよかった」「充実した時間を過ごせた」と言ってもらえる症例検討会に成長するように工夫を重ねていきたいと考えています。

コロナ禍のため、ハイブリッド開催を実施していることから現地参加者がまだまだ少なく、検討会後の懇親会も開催できず、対面での交流を深められないことを大変残念に思っていますが、コロナ禍収束後は、地域の先生に是非会場に足を運んでいただき、そこで活発な議論を交わしたあとは会場を移して懇親会を行い、膝を交えた交流を図れればと期待しています。

今後も地域医師会合同症例検討会への多数の先生のご参加をお待ちしております。

本院はこれからも、熱意をもって地域の先生との連携を進めていきたいと考えておりますので、引き続き何卒よろしくお願いいたします。



魚嶋 伸彦（うおしま のぶひこ）

副院長

血液内科 部長

【専門】

血液疾患

内科一般

【資格】

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本血液学会 評議員・指導医・専門医

日本造血・免疫細胞療法学会 評議員・認定医・広報委員

日本検査血液学会 評議員

日本自己血輸血・周術期輸血学会 日本輸血・細胞治療学会 学会認定・自己血輸血責任医師

日本がん治療認定医機構 認定医

近畿血液学会 評議員

近畿さい帯血バンク臨床評価委員
細胞治療認定管理師制度協議会 細胞治療認定管理師
日本骨髄バンク 調整医師
日本輸血・細胞治療学会 認定医
京都府立医科大学 臨床教授
京都府立医科大学 客員講師

お問い合わせ先



京都第二赤十字病院 地域医療連携・入退院支援課

TEL : 075-212-6186

FAX : 075-212-6358

メールアドレス : renkeika@kyoto2.jrc.or.jp

ホームページ : <https://www.kyoto2.jrc.or.jp/>